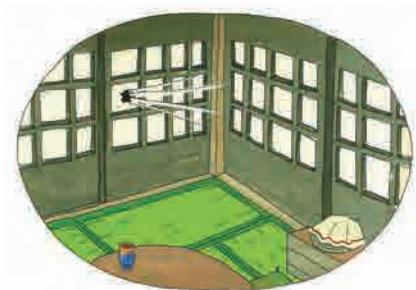


- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (行事編)
- 3 俳 句 小林一茶 村上鬼城 松尾芭蕉
- 4 あそびうた だくおんかいじゅう
- 5 早口ことば 「貨客船の旅客」
- 6 かぞえうた 1台 1俵 1枚 (ピアノ、米俵、ざるそば)
- 7 今月の詩 お月夜 北原白秋
- 8 た し 算 6の段
- 9 ことわざ 当たるも八卦当たらぬも八卦 後の祭り
衣食足りて礼節を知る 烏合の衆
- 10 か け 算 7の段
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた 10人のインディアン
- 13 今月のうた 日本の一番
- 14 四字熟語 暗中模索 一刀両断 電光石火
- 15 おはなし 北風と太陽
- 16 童 謡 案山子
- 17 イメージトレーニング 森のお友だち (第6話 探検その3)
(イメージしてみましょう)
- 18 漢 詩 九月 九日 山東の兄弟を憶う
- 19 百人一首 皇太后宮大夫俊成 源重之 中納言家持 陽成院
- 20 復習コーナー
- 21 暗 示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

俳 句

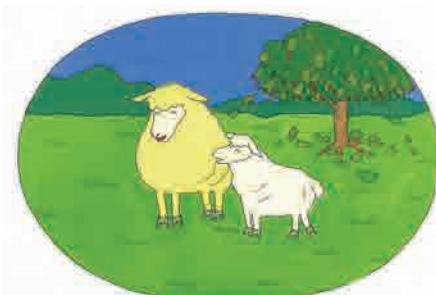
あき よ よ
秋の夜や 障子の穴が 笛を吹く

こばやしいつさ
小林一茶



おや よりも しろ ひつじ ケ
親よりも 白き羊や 今朝の秋

むらかみきじょう
村上鬼城



あま や こえ び
海士の屋は 小海老にまじる いとどかな

まつおばしょう
松尾芭蕉



《だくおんかいじゅう》

だくおん かいじゅう やってきた
なんでも へんしん だくおんかいじゅう
さる が へんしん ざるになる
かき が へんしん かぎになる
ふた が へんしん ぶたになる
からす が へんしん なにになる
なんでも へんしん だくおんかいじゅう やってきた



今月の詩

お月夜

きたはらはくしゅう
北原白秋

トン トン トン あけてください
どなたです
わたしや木の葉よ トン コトリ

トン トン トン あけてください
どなたです
わたしや風です トン コトリ

トン トン トン あけてください
どなたです
月のかげです トン コトリ



当たるも八卦当たらぬも八卦

占いは当たる場合もあれば、当たらない場合もある。
結果は気にせずためしに試みてみよう。



後の祭り

物事には時機があり、それを逃すと役に立たなくなる。手遅れになること。



衣食足りて礼節を知る

生活が豊かになって初めて、恥や外聞に気を配り、礼儀を知るようになる。



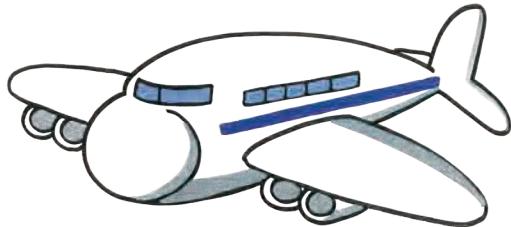
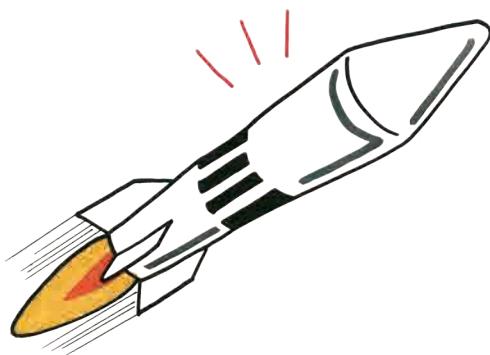
鳥合の衆

からすの寄り集まりのように、規律も統制もなく集められた人々。



なぞなぞ

- 1 火をふき出して、いきおいよく空へ向かっていくものなあに？
- 2 頭の上で、はねをくるくるまわしながら、空を飛ぶ乗り物はなあに？
- 3 大きな風船で、ふわふわ飛ぶ乗り物はなあに？
- 4 おしてもだめだけど、「引こう引こう」と言って、たくさんの人を乗せる乗り物はなあに？



《10人のインディアン》

①ひとり



ひとさしゆびを
あげる

②ふたり



ピースをする

③さんいんの
インディアン



さんぽんゆびを
だす

④よにん



よんほんゆびを
だす

⑤ごにん



てをパーにする

⑥ろくにんの
インディアン



もうかたほうの
ひとさしゆびを
あげる

⑦しちにん



ピースをする

⑧はちにん



さんぽんゆびを
だす

⑨きゅうにんの
インディアン



よんほんゆびを
だす

⑩じゅうにんの
インディアンボーイズ



りょうてを
パーにする

⑪じゅうにん



⑫きゅうにん



⑬はちにんの
インディアン



⑭しちにん



⑮ろくにん



⑯ごにんの
インディアン



⑰よにん



⑱さんいん



⑲ふたりの
インディアン



⑳ひとりの
インディアンボーイ



今月のうた

《日本の一一番》

いちばん いちばん
一番 一番

にほん いちばん
日本の一一番

いちばんたか やま
一番高い山
いちばんなが かわ
一番長い川
いちばんおお みずうみ
一番大きい湖
いちばんふか みずうみ
一番深い湖
いちばんおお しま
一番大きい島

なんてたって
なんてたって
なんてたって
なんてたって
なんてたって
なんてたって
なんてたって
なんてたって

ふじさん
富士山
しなのがわ
信濃川
びわこ
琵琶湖
たざわこ
田沢湖
ほんしゅう
本州

いちばん いちばん
一番 一番

にほん いちばん
日本の一一番



あんちゅうもさく

暗中模索

くらやみなかてさぐさが
暗闇の中で手探りで探しものをするように、手が
ものごとさがもど
かりのない物事を、探し求めること。



いっとうりょうだん

一刀両断

きまぶたけつだん
ひと切りで真っ二つにすること。すぐに決断して、
ものごとしおり
物事を処理すること。



でんこうせつか

電光石火

みじかじかんこうどうどうさ
きわめて短い時間のこと。行動や動作が、非常に
はや速いこと。

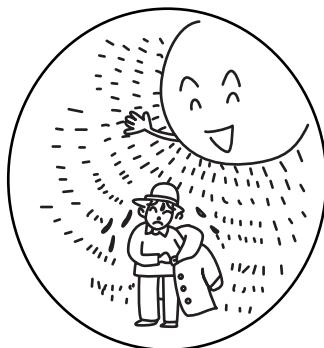
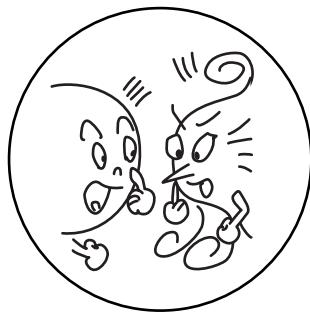
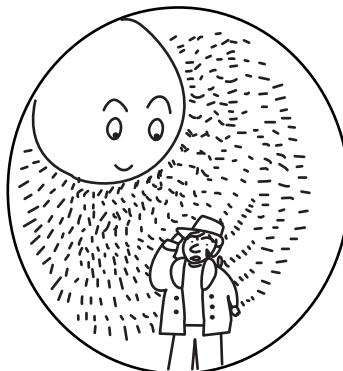


おはなし

北風と太陽

「北風と太陽」は、北風と太陽が力くらべをしたお話です。お話を聞いた後で、質問にこたえてみましょう。

- 1 北風と太陽は、どうやって力くらべをしたのですか？
- 2 北風は、どうやって旅人のコートをぬがせようとしたのですか？
- 3 太陽は、どうやって旅人のコートをぬがせようとしたのですか？
- 4 どちらが勝ちましたか？



遍く茱萸を挿して 一人を少くを 遙かに知る 兄弟高きに登る処 独り異郷に在りて 異客と為る
あまね しゅ ゆ さ いちにん か はる てい たか のぼ ところ か はる せつ あ ごと ますます しん おも な

九月九日 山東の兄弟を憶う
王維 いわく
がつ ここのか
さん とう
けい てい
おう
おも



百人一首

筑く
峰みね波ば
よ嶺ね
恋こいの
ぞ落お
つつる
つもりて
みな
淵ふちの
川がわ
となりぬる

(陽成院)

かささぎの
渡わたせ
る橋に
白しきを
見みれば
置お
く霜しも
夜よの
ぞ更ふ
けにける

(中納言
家持)

風かぜ
岩いわを
うつ波の
くだけて
物もの
を思おも
ふころかな

(源
重之)

世よ
道みち
こそなか
山やまよ
の奥おくに
にも思おも
鹿しづか
ぞ鳴な入い
くる

(皇太后宮大夫俊成)



皇太后宮大夫俊成